

1 関数の連続性 (2019-09-26)

問題1 任意の $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{R}^n$ に対して次が成り立つことを示せ.

- (a) Schwarz の不等式: $\|\mathbf{x}\|\|\mathbf{y}\| \geq |\sum_{k=1}^n x_k y_k|$. ただし $\mathbf{x} = (x_1, \dots, x_n)$, $\mathbf{y} = (y_1, \dots, y_n)$.
(b) 三角不等式: $\|\mathbf{x} + \mathbf{y}\| \leq \|\mathbf{x}\| + \|\mathbf{y}\|$.

問題2 集合 $A \subset \mathbb{R}^n$ に対して次の2命題は同値であることを示せ.

- (i) A は開集合である.
(ii) A^c は閉集合である.

問題3 集合 $A \subset \mathbb{R}^n$ と点 $\mathbf{a} \in A$ に対して次の2命題は同値であることを示せ.

- (i) \mathbf{a} は A の内点である.
(ii) $U_\delta(\mathbf{a}) \subset A$ を満たす $\delta > 0$ が存在する.

問題4 点 $\mathbf{a} \in \mathbb{R}^n$ を中心とする半径 $r > 0$ の n 次元球 $A = U_r(\mathbf{a})$ を考える. 任意の点 $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$ に対して $s := \|\mathbf{x} - \mathbf{a}\|$ とおく. 次の命題を示せ.

- (a) $s < r$ ならば $U_{r-s}(\mathbf{x}) \subset A$ が成り立つ.
(b) $s > r$ ならば $U_{s-r}(\mathbf{x}) \subset A^c$ が成り立つ.

問題5 $A, B \subset \mathbb{R}^n$ を開集合, $C, D \subset \mathbb{R}^n$ を閉集合とする. 次の命題を示せ.

- (a) $A \cup B$ は開集合である.
(b) $A \cap B$ は開集合である.
(c) $C \cup D$ は閉集合である.
(d) $C \cap D$ は閉集合である.
(e) $A \setminus C$ は開集合である.
(f) $C \setminus A$ は閉集合である.

ヒント: 集合のド・モルガン則 $(X \cup Y)^c = X^c \cap Y^c$, $(X \cap Y)^c = X^c \cup Y^c$ や関係式 $X \setminus Y = X \cap Y^c$ を上手く用いる.

解答例 (第 1 回)

問題 1 (a) $\mathbf{y} = (0, \dots, 0)$ のときは両辺とも 0 になるので不等式は成り立つ. さもなければ $z = \sum_{k=1}^n x_k y_k$ とおくと, 任意の $t \in \mathbb{R}$ に対して $0 \leq \|\mathbf{x} + t\mathbf{y}\|^2 = \sum_{k=1}^n (x_k + ty_k)^2 = \|\mathbf{x}\|^2 + 2tz + t^2\|\mathbf{y}\|^2 = \|\mathbf{x}\|^2 - \frac{z^2}{\|\mathbf{y}\|^2} + \|\mathbf{y}\|^2(\frac{z}{\|\mathbf{y}\|^2} + t)^2$ より $\|\mathbf{x}\|^2 - \frac{z^2}{\|\mathbf{y}\|^2} \geq 0$ すなわち $\|\mathbf{x}\|\|\mathbf{y}\| \geq |z|$.

(b) (a) より $\|\mathbf{x} + \mathbf{y}\|^2 = \|\mathbf{x}\|^2 + 2z + \|\mathbf{y}\|^2 \leq \|\mathbf{x}\|^2 + 2|z| + \|\mathbf{y}\|^2 \leq \|\mathbf{x}\|^2 + 2\|\mathbf{x}\|\|\mathbf{y}\| + \|\mathbf{y}\|^2 = (\|\mathbf{x}\| + \|\mathbf{y}\|)^2$ すなわち $\|\mathbf{x} + \mathbf{y}\| \leq \|\mathbf{x}\| + \|\mathbf{y}\|$.

問題 2 A を開集合とすると $\partial A^c = \partial A \subset A^c$ より A^c は閉集合である. 逆に A^c を閉集合とすると $\partial A = \partial A^c \subset A^c$ より A は開集合である.

問題 3 \mathbf{a} は A の内点 $\Leftrightarrow \mathbf{a} \in A$ かつ \mathbf{a} は A の境界点でない $\Leftrightarrow \mathbf{a} \in A$ かつある $\delta > 0$ に関して $U_\delta(\mathbf{a}) \cap A = \emptyset$ または $U_\delta(\mathbf{a}) \cap A^c = \emptyset$. ここで $U_\delta(\mathbf{a}) \cap A = \emptyset \Leftrightarrow U_\delta(\mathbf{a}) \subset A^c$ は $\mathbf{a} \in U_\delta(\mathbf{a})$ より $\mathbf{a} \in A$ と両立しない. また $U_\delta(\mathbf{a}) \cap A^c = \emptyset \Leftrightarrow U_\delta(\mathbf{a}) \subset A$. 従って最後の命題は (ii) と同値である.

問題 4 (a) 任意の点 $\mathbf{y} \in U_{r-s}(\mathbf{x})$ に対して, 三角不等式 (問題 1 (b)) より $\|\mathbf{y} - \mathbf{a}\| = \|(\mathbf{y} - \mathbf{x}) + (\mathbf{x} - \mathbf{a})\| \leq \|\mathbf{y} - \mathbf{x}\| + \|\mathbf{x} - \mathbf{a}\| < (r - s) + s = r$ すなわち $\mathbf{y} \in A$ が成り立つ.

(b) 任意の点 $\mathbf{y} \in U_{r-s}(\mathbf{x})$ に対して, 同じく三角不等式より $\|\mathbf{y} - \mathbf{a}\| \geq \|\mathbf{x} - \mathbf{a}\| - \|\mathbf{x} - \mathbf{y}\| > s - (s - r) = r$ すなわち $\mathbf{y} \in A^c$ が成り立つ.

問題 5 (a) $A \cup B$ の点はすべて $A \cup B$ の内点であることを示せばよい. $\mathbf{x} \in A$ ならば A は開集合なので \mathbf{x} は A の内点, 特に問題 3 より $U_\delta(\mathbf{x}) \subset A \subset A \cup B$ を満たす $\delta > 0$ が存在する. 同様に $\mathbf{x} \in B$ ならば B は開集合なので $U_\delta(\mathbf{x}) \subset B \subset A \cup B$ を満たす $\delta > 0$ が存在する. 以上より任意の点 $\mathbf{x} \in A \cup B$ に対して, $U_\delta(\mathbf{x}) \subset A \cup B$ を満たす $\delta > 0$ が存在するので \mathbf{x} は $A \cup B$ の内点である.

(b) $A \cap B$ の点はすべて $A \cap B$ の内点であることを示せばよい. 任意の点 $\mathbf{x} \in A \cap B$ に対して, $\mathbf{x} \in A$ かつ $\mathbf{x} \in B$ より (a) と同様にして $U_{\delta_1}(\mathbf{x}) \subset A$ および $U_{\delta_2}(\mathbf{x}) \subset B$ を満たす $\delta_1, \delta_2 > 0$ が存在することが分かる. 特に $\delta := \min\{\delta_1, \delta_2\}$ とすると $U_\delta(\mathbf{x}) \subset U_{\delta_1}(\mathbf{x}) \subset A$ かつ $U_\delta(\mathbf{x}) \subset U_{\delta_2}(\mathbf{x}) \subset B$ より $U_\delta(\mathbf{x}) \subset A \cap B$. これより \mathbf{x} は $A \cap B$ の内点である.

(c) 問題 2 より $(C \cup D)^c = C^c \cap D^c$ が開集合であることを示せばよい. 問題 2 より C^c, D^c は開集合なので (b) より $C^c \cap D^c$ は開集合である.

(d) 同様に $(C \cap D)^c = C^c \cup D^c$ が開集合であることを示せばよい. 問題 2 より C^c, D^c は開集合なので (a) より $C^c \cup D^c$ は開集合である.

(e) 仮定と問題 2 より A, C^c は開集合なので (b) より $A \setminus C = A \cap C^c$ は開集合である.

(f) 仮定と問題 2 より C, A^c は閉集合なので (d) より $C \setminus A = C \cap A^c$ は閉集合である.